

バスケットボール男子における「ミスマッチ」に関する研究

～ A Study of Mismatch on Men's Basketball. ～

1K10C013 鮎川 友和

指導教員 主査 平田竹男 先生

副査 中村好男 先生

【背景】

現在、バスケットボール男子日本代表の成績は芳しくない。目標に掲げているオリンピック出場からは 37 年間遠ざかっている。そんななか、2012 年、公益財団法人日本バスケットボール協会は選手の大型化を図るジュニア世代の育成プロジェクトを新たにスタートさせた。バスケットボールにおいて高身長であることと成績の間に相関関係が認められることは先行研究によって示されている。しかしながら、実際に国際大会の場において「ミスマッチ」が存在しているかどうか、またその程度については明らかにされているものではない。

【目的】

2012 年ロンドンオリンピックのデータを用い、オリンピック予選敗退チームとオリンピック本戦出場チームの間に「ミスマッチ」が存在しているかどうかを明らかにすることを本研究の目的とする。

【方法】

調査対象を以下のように設定する。

<大会>：ロンドンオリンピック本戦、各大陸予選

<情報>：身長、ポジション、スタッツ

<ミスマッチ>：身体的ミスマッチ、能力的ミスマッチ

<群>：本戦に出場した 12 チームで構成される「本戦出場チーム群」、予選で敗退した 70 チームで構成される「予選敗退チーム群」

2 つの手法を用いて検証を行う。

・手法 1（身体的ミスマッチ）

平均身長、最低身長、最高身長、ポジション分布、身長帯分布、ポジション別身長帯分布、身長帯別ポジション分布の 7 カテゴリにおいて検証を行う。

・手法 2（能力的ミスマッチ）

13 のスタッツ項目を 2 チーム群間でポジション別、加えて身長帯別に比較検証を行う。

【結果】

・手法 1「身体的ミスマッチ」

平均身長、最低身長、最高身長の全ポジションにおいて「予選敗退チーム群」よりも「本戦出場チーム群」のほうが高身長であるという結果が示された。ポジションと身長帯の登録人数比率関係においては、各ポジションを主として構成する身長帯が、「予選敗退チーム群」よりも「本戦出場チーム群」のほうがひとつ高いということ

が明らかとなった。身長帯別にみると、2 チーム群間でポジション登録において違いが見受けられたのは 190cm～199cm と 200cm～209cm であった。

・手法 2「能力的ミスマッチ」

G ポジション、C ポジションにおける 2 チーム群間の比較では、同数値もしくは「予選敗退チーム群」のほうが「本戦出場チーム群」よりも高数値を示していた。F ポジションにおいては「予選敗退チーム群」よりも「本戦出場チーム群」のほうが高数値を示していた。身長帯別に分解して比較検証したところ、身長帯によって高数値のチーム群が異なることはなかった。

【考察】

・手法 1「身体的ミスマッチについて」

手法 1 の結果より「予選敗退チーム群」よりも「本戦出場チーム群」が高身長という形で「ミスマッチ」が発生していると考えられる。ポジションを主として構成する身長帯の登録人数比率が「予選敗退チーム群」と「本戦出場チーム群」で異なり、その登録人数比率の差分が、「ミスマッチ」発生の可能性を高めていると思われる。190cm～199cm の選手が、複数ポジションにまたがらず、G ポジションを主として担うことができるかどうか。同様に 200cm～209cm の選手が F ポジションを主として担うことができるかが 2 チーム群間の違いと考えられる。高身長帯がひとつのポジションに専念するのが「本戦出場チーム群」のポジション構成であると言えるだろう。

・手法 2「能力的ミスマッチについて」

手法 2 の結果より F ポジションにおいて「本戦出場チーム群」優位の「ミスマッチ」が生じていると考えられる。身長帯によって異なるチーム群が高数値になるのではなく、ポジション単位で各チーム群の特徴や優位性が存在すると思われる。

【結論】

本研究では「身体的ミスマッチ」と「能力的ミスマッチ」の 2 つの観点から、「本戦出場チーム群」と「予選敗退チーム群」の間にある「ミスマッチ」の存在を明らかにすることができた。同じ身長であってもチーム群によって異なるポジションとしてプレイしている可能性があり、これが「ミスマッチ」の要因として考えられる。選手の大型化を目指すチームとしては、長身者をどのポジションでプレイさせるかを検討する必要があるだろう。